

「消化器」コースユニット2・3 試験問題

2011年12月2日

1. 正しいのはどれか

- (a) 正確度はバラツキの度合いを示す
- (b) アミラーゼは個体間変動が大きい
- (c) 凝固検査には血清を用いる
- (d) 溶血すると CK は高値となる
- (e) 総コレステロールの基準値は $\text{mean} \pm 2\text{SD}$ で設定されている

2. 正しいのはどれか

- (a) 迷走神経は直腸まで分布している
- (b) 胃全摘するとおよそ6カ月後には大球性貧血をきたす
- (c) 小腸壁において、Meissner 神経叢は Auerbach 神経叢より内腔側に位置する
- (d) ビリルビンは脂肪吸収において界面活性剤の役目を果たしている
- (e) スクロースは2分子のグルコースよりなる二糖類の一種である

3. 50歳の男性。左側顎下部に鶏卵大の無痛性、弾性硬、可動性の腫瘤を触知した。唾液腺造影 CT 検査にて、顎下腺の半月状欠損像と後方圧排像が認められた。最も疑われる疾患はどれか。

- (a) 唾石症
- (b) 顎下型がま腫
- (c) 多形腺腫
- (d) リンパ管腫
- (e) Sjögren 症候群

4. がま腫について正しいのはどれか。

- (1) 顎下腺に発生することが多い
- (2) 唾液腺腫瘍である
- (3) 口腔底部の片側に生じることが多い
- (4) 唾液の軟組織内貯留により生じる
- (5) 開窓療法は無効である

- (a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

5. 咬合不正（咬み合せの異常）を生じる骨折はどれか

- (1) 下顎骨体部骨折
- (2) 下顎骨関節突起骨折
- (3) 下顎骨筋突起骨折
- (4) 頬骨弓骨折
- (5) Le Fort I 型骨折

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

6. 唇顎口蓋裂について正しいのはどれか

- (a) 唇裂は正中が最も多い
- (b) 唇裂の閉鎖は生後すぐ行なう
- (c) 顎口蓋裂の閉鎖は生後すぐに行なう
- (d) 哺乳指導が必要である
- (e) 不正咬合を伴うことは少ない

7. 口腔癌について正しいのはどれか

- (1) 放射線治療は有効ではない
- (2) 部位別では口唇に多い
- (3) 発現年齢では若年者に多い
- (4) 組織型では扁平上皮癌が多い
- (5) 遠隔転移部位では肺が多い

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

8. 歯性上顎洞炎について正しいのはどれか

- (a) 顎骨の破壊が著明である
- (b) 切歯が原因となることが多い
- (c) 左右同時に発症することが多い
- (d) 上顎洞の X 線透過性が亢進する
- (e) う歯や歯周炎が原因で生じる

9. 顎運動に関与しない筋はどれか

- (a) 咬筋
- (b) 側頭筋

- (c) 顎二腹筋
- (d) 顎舌骨筋
- (e) 頬筋

10. 大唾液腺に発生する唾石症について正しいのはどれか

- (a) 唾液腺造影で導管の断絶と狭窄がみられる
- (b) 唾石は舌下腺に多くみられる
- (c) 唾石の主成分は硝酸石灰である
- (d) 腺体内唾石は自然排出されやすい
- (e) 摂食時の唾液流出障害により唾疔痛を生じることがある

11. 唾液腺について正しいのはどれか

- (1) 耳下腺は粘液腺優位である
- (2) 舌下腺は漿液腺である
- (3) 顎下腺由来の唾液分泌が最も多い
- (4) 唾石症は顎下腺に最も多い
- (5) ガマ腫は舌下腺の貯留嚢胞である

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

12. 上咽頭癌について正しいのはどれか

- (1) 40-60 歳代に多い
- (2) 滲出性中耳炎で発症することが多い
- (3) パピローマウイルスとの関わりが深い
- (4) 喫煙、飲酒との関わりが深い
- (5) 抗癌剤と放射線治療を中心に治療する

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

13. 早期胃癌の消化管造影所見として正しいものはどれか

- (a) giant fold
- (b) 周堤形成
- (c) tasche
- (d) 陥凹内結節
- (e) bridging fold

1 4. 早期胃癌の肉眼型で最も頻度が高いものはどれか

- (a) 1 型
- (b) 2 型
- (c) 2c 型
- (d) 0-IIc 型
- (e) IV 型

1 5. 大腸癌に関する記載について誤っているものはどれか

- (a) apple core sign は狭窄を来す進行大腸癌の所見である
- (b) 直腸には漿膜を持たない部位がある
- (c) 早期大腸癌とは粘膜層までにとどまる病変である
- (d) 早期大腸癌はリンパ節転移の有無を問わない
- (e) 進行大腸癌の肉眼型としては潰瘍限局型が多い

1 6. 炎症性腸疾患に関する記載として正しいものはどれか

- (1) Crohn 病では断続性病変が特徴である
- (2) 潰瘍性大腸炎では lead pipe appearance が認められる
- (3) Crohn 病は直腸から炎症を来す
- (4) 潰瘍性大腸炎の好発部位は上行結腸である
- (5) 潰瘍性大腸炎は進行すると cobble stone appearance を呈する

- (a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

1 7. 以下の正常組織で放射線感受性が最も高いものはどれか

- (a) 食道
- (b) 胃
- (c) 小腸
- (d) 結腸
- (e) 肛門

1 8. 食道癌の放射線治療に関して誤っているものはどれか

- (1) 遠隔転移のない進行食道癌に対する治療法は手術以外に化学放射線療法がある
- (2) 放射線治療での一次局所効果は奏効率 40-50% である
- (3) 亜急性期の副作用として放射線肺臓炎がある

- (4) 食道癌に対する化学放射線療法では化学療法と放射線治療を別の時期に行う
- (5) 食道癌に対する外部照射の利点は原発巣と転移リンパ節領域を同時に治療できることである

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 2, 4 (e) 4, 5

19. 消化器癌（肝・胆・膵）の放射線治療に関して誤っているものはどれか

- (1) 肝細胞癌の門脈塞栓が存在し他の治療法が困難な場合は放射線治療の適応がある
- (2) 肝細胞癌の陽子線治療は手術に匹敵する効果が報告されている
- (3) 切除不能な局所進行膵癌の5年生存率は1-2%である
- (4) 膵癌の放射線感受性は低いため、疼痛緩和目的の照射は無効である
- (5) 胆管細胞癌の放射線感受性は比較的高い

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

20. 食道癌について正しいものはどれか

- (1) 好発部位は胸部中部食道である
- (2) 頭頸部癌との合併率が高い
- (3) Barrett 食道癌の頻度が高い
- (4) 内視鏡的メチレンブルー法は診断に有用である
- (5) Boerhaave 症候群の好発部位は胸部中部食道である

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

21. 食道の解剖について正しいのはどれか

- (1) 左反回神経は大動脈弓をまわって上行する
- (2) 奇静脈は下大静脈に流入する
- (3) 食道の上部1/3は平滑筋からなる
- (4) 食道には2つの生理的狭窄部がある
- (5) 胸部中部食道には気管支動脈の分枝が分布する

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

22. 胃癌の予後について正しいのはどれか

- (1) 男女別生存率では、男性が女性に比べて有意に低い
- (2) 肉眼型が 4 型は他の胃癌と比べて比較的予後は良好である
- (3) 早期癌でも粘膜下層への浸潤を認めた症例の 5 年生存率は 80%以下である
- (4) 漿膜浸潤を認めた症例の 5 年生存率は 50%以下である
- (5) 肝転移や腹膜播種を有する StageIV 症例の 5 年生存率は 10%以下である

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

2 3. 胃癌の治療方針について正しい組合せどれか

- (1) 15mm 大の IIc 型・印環細胞癌は、内視鏡下粘膜下層剥離術の適応ではある
- (2) 肝転移を伴う進行胃癌に対する治療は、胃切除術＋肝切除術を行うことが一般的である
- (3) 最近、リンパ節郭清の目的で脾摘出術が行われることはなくなった
- (4) 一般的に腹腔鏡下胃切除術は、開腹胃切除術に比べて手術時間が長い、低侵襲である
- (5) 腹水を伴う 4 型胃癌は、胃全摘術を行わない方がよい

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

2 4. 胃癌に対する胃全摘術で切断されない血管はどれか。

- (1) 胃十二指腸動脈
- (2) 左下横隔動脈噴門枝
- (3) 右胃大網動脈
- (4) 後胃動脈
- (5) 右下横隔動脈

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

2 5. 胃癌の術後合併症・術後障害について正しいものはどれか

- (a) 早期ダンピングは低血糖が主な原因である
- (b) 胃切除術後は低色素性貧血をきたすことがある
- (c) 迷走神経切断による胆石症の発生はまれである
- (d) 胃切除術後の縫合不全の頻度は、一般的に 10%前後である
- (e) 胃全摘後のビタミン B12 欠乏による貧血は術後 2 年以内に発症することが多い

26. 大腸癌治療について正しいのはどれか

- (1) 治癒切除後の5年生存率は結腸癌が直腸癌より良好である
- (2) sm癌ではリンパ節郭清の必要はない
- (3) 直腸癌手術では、半数以上に永久的人工肛門が造設される
- (4) 膀胱浸潤例は根治切除の対象とならない
- (5) sm癌は内視鏡的切除の適応である

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

27. 結腸癌について正しいのはどれか

- (1) 浸潤潰瘍型が多い
- (2) 左側結腸癌はイレウスをきたしやすい
- (3) S状結腸癌の頻度がもっとも多い
- (4) 血行性転移臓器は肺がもっとも多い
- (5) 結腸癌の再発形式は、肝転移より腹膜播種の方が良い

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

28. 唾液腺及びその腫瘍について正しいのはどれか

- (1) 唾液腺腫瘍は舌下腺に生じることが多い
- (2) 唾液腺腫瘍の中にEBウィルスと関係する腫瘍がある
- (3) 唾液腺の腺房は腺房細胞と筋上皮細胞の2層構造である
- (4) low grade の粘表皮癌は予後が悪い
- (5) 多形腺腫に軟骨成分が見られることはない

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

29. 食道癌について正しいものはどれか

- (a) 欧米では胸部上部食道癌が多い
- (b) 日本人には腺癌が多い
- (c) 分化度の高い扁平上皮癌ほど角化に乏しい
- (d) 上皮内癌でも5年後は50%以下である
- (e) 食道腺癌はBarrett食道や逆流性食道炎と関係がある

30. 腸管感染症について、正しいものはどれか

- (1) 免疫抑制状態では、サイトメガロ腸炎が発症する可能性がある
- (2) 偽膜性腸炎の薬物治療の第一選択はバンコマイシン経口投与である
- (3) アメーバ赤痢の確定診断には便培養検査が必須である
- (4) 回盲部の腸結核は稀である
- (5) 腸管スピロヘータ症は重症化した後に発見される場合が多い

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

31. A型胃炎について、正しいものはどれか

- (1) 大球性貧血を合併することがある
- (2) カルチノイドが多発することがある
- (3) H.pylori 感染がある場合は発症しない
- (4) 主細胞が主に障害されて起こる
- (5) 病変は前庭部(antrum)中心の分布となる

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

32. 後腹膜に固定されているのはどれか

- (1) 虫垂
- (2) 上行結腸
- (3) 下行結腸
- (4) 横行結腸
- (5) S状結腸

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

33. 疾患と好発部位の組み合わせで正しいものを選び

- (1) 大腸癌——横行結腸
- (2) 大腸憩室——横行結腸
- (3) 虚血性大腸炎——上行結腸
- (4) 腸軸捻転——S状結腸
- (5) クロウン病——回盲部

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

34. 疾患と治療の組み合わせで正しいものを選び

- (1) 虚血性大腸炎——血栓溶解療法
- (2) クロウン病——抗 TNF α 抗体
- (3) 大腸癌——抗 EGFR 抗体
- (4) 偽膜性大腸炎——ペニシリン系抗生剤
- (5) 急性出血性直腸潰瘍——プロトンポンプ阻害薬

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

35. 誤った記述を選び

- (1) クロウン病では上部消化管にも病変が出現する
- (2) 病歴の長い潰瘍性大腸炎患者では大腸癌の発現が一般人より多い
- (3) クロウン病の発症年齢は 10 代から 20 代にピークがある
- (4) 潰瘍性大腸炎では外科手術後も再手術を要する頻度が高い
- (5) クロウン病の外科手術の理由で最も多いのは大量出血である

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

36. 食道疾患に関する次の記述のうち誤っている組み合わせはどれか

- (1) GERD の発症は下部食道括約筋逆流防止機構の破綻と関連している
- (2) 胸部中部食道 (Mt) は漿膜に覆われている
- (3) T1aN1M0 の食道癌は早期食道癌であり ESD の適応である
- (4) 食道アカラシアの分類として Los Angeles 分類がある
- (5) 進行食道癌の症状として反回神経麻痺による嚥声がある

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

37. 胃疾患に関する次の記述のうち誤っている組み合わせはどれか

- (1) AGML の原因としてアルコールや NSAIDs、ストレスが挙げられる
- (2) 早期胃癌は IIc 型が最も多い
- (3) 早期胃癌の 5 年生存率は 60% である
- (4) 胃底腺ポリープは早期胃癌 IIa 型に類似し ESD の適応がある
- (5) GIST の治療として抗 HER2 モノクローナル抗体が有効である

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

38. 胃疾患に関する次の記述のうち正しい組み合わせはどれか

- (1) 早期胃癌 ESD 後の問題点として異所性異時性再発がある
- (2) 胃癌の左鎖骨上窩リンパ節転移を Schnitzler 転移という
- (3) 慢性胃炎の内視鏡的分類として Gross 分類がある
- (4) 早期胃癌の所見として、集中皺の途絶・棍棒状太まり・癒合像や、潰瘍
辺縁虫くい像があげられる。
- (5) 胃粘膜下腫瘍の所見として架橋皺 (bridging fold) がある

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5

39. 次のうちで正しい組み合わせはどれか

- (1) 胃悪性リンパ腫—S-100 protein 陽性
- (2) ヨード不染帯・不染域—食道扁平上皮癌
- (3) 特発性血小板減少性紫斑病—*H. pylori* 除菌療法
- (4) Boerhaave 症候群—粘膜下層までの裂創
- (5) 食道静脈瘤の排水路：左胃静脈

(a) 1, 2 (b) 1, 5 (c) 2, 3 (d) 3, 4 (e) 4, 5

40. 次のうちで誤っている組み合わせはどれか

- (1) A 型胃炎：*H. pylori* 感染
- (2) NCCP (non-cardiac chest pain)—胃穹隆部静脈瘤
- (3) Rokitansky 憩室—牽引性憩室
- (4) EVL—内視鏡的食道静脈瘤結紮術
- (5) 胃酸分泌促進—セクレチン

(a) 1, 2, 3 (b) 1, 2, 5 (c) 1, 4, 5 (d) 2, 3, 4 (e) 3, 4, 5